

事業所番号	2395700301
事業所名	グループホーム大地の丘
自己評価作成日	令和5年10月30日
運営推進会議開催日	令和6年1月24日
外部評価作成日	令和6年3月27日
提出日・公表日	令和6年4月1日

凡例
A. 十分にできている
B. ほぼできている
C. あまりできていない
D. ほとんどできていない

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述 (具体的な実施状況など)	現状の課題や質の向上に向けて運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述(新たな課題、改善点など)
<b>I. 理念・安心と安全に基づく運営</b>							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	B. ほぼできている	法人の基本理念グループホームの運営理念を施設内に掲示している。毎月の会議においても全員で理念を唱和し、それに沿って入居者のケア内容に関する検討を行っている。			基本理念と運営理念が玄関ホールに掲示されている。グループホーム会議でも理念を唱和した上で入居者支援を検討していることが議事録で確認できた。
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	B. ほぼできている	新型コロナウイルスが5類に変更になったことに伴い、感染対策をしながら徐々に外出など地域との交流を取り戻そうとしている。今年度も隣のミカン狩り園に出かける予定である。	引き続き地域に出ていける支援を続けてほしい。		神社やお寺へ外出し地域の方と交流を図っている。今後も感染対策を行いながら、認知症の理解や支援方法を地域の方と共有出来るよう地域交流の場として活用してほしい。
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A. 十分にできている	運営推進会議を2か月に1回開催し、グループホームのサービス実施状況や利用者の暮らしぶりの報告を行い、意見交換が出来る。	運営推進会議には家族代表者の参加もあり、意見交換されている。		会議は2か月に1回開催され、利用者家族や行政も参加し入居者の様子や取組内容について報告し、意見交換の場になっている。会議での意見を活かして取組む姿勢が見られる。
4	市町村との連携	市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	A. 十分にできている	運営に関する相談や、事故発生時の報告を随時行っている。昨年同様に、南知多町の健康介護課より1名運営推進会議の構成員として参加をいただいている。今年度も町主催の福祉敬老フェアに事業所として参加した。	南知多町役場には必要時には随時相談させていただいている。推進会議にも参加していただき連携が取れている。		南知多町役場健康介護課職員が推進会議に参加している。また、職員は町が実施する地域ケア会議や認知症支援協議体にも参加し、地域包括ケアシステム構築に向けた取組みにも協力している。事故発生時は、速やかに報告されている。
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	B. ほぼできている	法人の身体拘束廃止委員会に職員が参加し、運営推進会議で身体拘束の適正化について毎回検討・報告している。年2回法人主催の身体拘束廃止研修会があり、参加した職員が伝達講習を行った。現在帰宅願望の強い入居者がいるが、玄関の施錠をせず付き添って一緒に外に出ている。		A. 十分にできている	帰宅願望の強い入居者の方に、寄り添って対応している記録が確認できた。身体拘束廃止委員会に参加し、グループホーム会議では身体拘束の研修に参加した職員が伝達講習されている。
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	B. ほぼできている	ストレスから虐待につながらないよう、希望する職員には毎年ストレスチェックを受けてもらっている。スピーチロックの具体例をホーム事務所に掲示している。不適切なケアについてグループホーム会議で検討している。		A. 十分にできている	虐待防止委員会に参加し、その内容をグループホーム会議で共有している。希望する職員にはストレスチェックを実施しているが、気付きを促すためにも全職員に必要であると考え、不適切なケアについては、教育マニュアルも活用し職員間の意識の統一を図れると良い。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	B. ほぼできている	現在制度を利用している方はいないが、日常生活自立支援事業や成年後見制度についての勉強会を行った。制度に関するパンフレットは事業所内にあり職員が閲覧できる環境にある。			グループホーム内で研修を行っており、権利擁護について学んでいる。知多地域の相談先として、知多地域権利擁護センターのパンフレットを準備されている。

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述 (具体的な実施状況など)	現状の課題や質の向上に向けて運営推進 会議で話しあった内容	外部評価	記述(新たな課題、改善点など)
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A.充分にできている	入居者の契約時には、契約書・重要事項説明書・料金表等の文書を提示し説明を行っている。			契約書・重要事項説明書の説明と署名がされていることを確認できた。契約書・重要事項説明書・料金表は、未確認。入居中に内容の変更があった場合は、家族等への十分な周知が必要である。
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	B.ほぼできている	ケアを通じて利用者の要望を把握するよう心掛けている。家族の来訪時にもコミュニケーションをとり要望が伝えやすいようにしている。意見や苦情は真摯に聞き対応している。サービス担当者会議を開催し、利用者や家族の意向を確認している。玄関にはご意見箱を設置している。		B. ほぼできている	サービス担当者会議などで利用者や家族の要望を把握し、支援内容を検討している。玄関には意見箱を設置し意見を伝えやすい環境を整備している。運営推進会議では利用者家族も参加し発言できる機会を設けている
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	B.ほぼできている	グループホーム会議には全職員が参加して意見交換を行っている。管理者は定期的に職員と面接を行い意見・提案を聞いている。年間行事は常勤・パート職員全員で分担している。			グループホーム会議録より、全職員が参加して意見交換を行っていることが確認できた。管理者は職員と面接を行い意見・提案を聞いている。
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	B.ほぼできている	希望休届に基づき原則月に2回まで休み希望が出せる体制がある。人事考課制度に基づき各職員の評価を行い給与や待遇に反映させている。		A. 充分にできている	人事考課制度を取り入れ、日頃の業務実績等が給与に反映される仕組みができています。働き方改革の観点から、有給休暇の計画的取得や超過勤務申請が出来るかなどもチェックする必要がありますと思う。休みの希望を出せる回数が増えたとより良いと思う。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	B.ほぼできている	管理者も職員と一緒に業務を行いOJTを行っている。法人内外の研修には各職員が随時参加し、グループホーム会議で伝達講習を行っている。		B. ほぼできている	新入職員に対する研修プログラムが準備されている。研修に参加した職員が、グループホーム会議で伝達している。職員育成の観点からも、計画的な研修参加予定を立てることが望ましい。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	B.ほぼできている	代表職員が地域ケア会議に出席し、他のグループホームや介護事業所の職員と交流し情報交換を行っているが、ネットワークや相互訪問の仕組みはできていない。			職員が地域ケア会議及び認知症支援協議体に参加し、同業者と事例検討を行ったり支援策を検討している。また、認知症介護家族交流会では、他事業所職員と協力して企画等含め積極的に参加している。今後、他事業所見学などさらなる交流ができる体制が構築できるとよい。
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	B.ほぼできている	食事の支度や片付け・洗濯など、毎日利用者と一緒にやっている。また、食事の量やおやつ飲み物は利用者が決めている。			食事の準備や洗濯、ゴミ捨てなど、利用者ができる役割を担えるよう支援をしていることがケース記録等で確認できた。食事の量や飲み物の選択など、自分で決められることを決めてもらっている。その時々で、利用者のペースに職員が合わせている。
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	B.ほぼできている	新型コロナウイルス感染症の流行以降家族との外出は中断しているが、感染対策を実施しながら面会は継続している。	引き続き日常的に外出ができるよう支援を続けてほしい。		状況に合わせた感染症対策をとりながらも、家族との面会が継続できるように配慮されている。今後も感染状況に応じた対応を続けていただき、家族等との面会や交流によって利用者の楽しさを増やしてほしい。今後外出なども再開の検討がなされるなどなお良いと思う。
<b>Ⅱ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>							
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	A.充分にできている	入居に際し本人と面談したり、ご家族に「暮らしの意向聞き取りシート」を記入してもらい意向を確認しアセスメントシートを作成している。それらの情報をもとに担当職員が24時間シートを作成し職員間で共有している。			ご本人と面談したり、ご家族に「暮らしの意向聞き取りシート」を記入してもらい暮らし方や過ごし方を確認し24時間シートを作成し職員間で共有していることが確認できた。

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述 (具体的な実施状況など)	現状の課題や質の向上に向けて運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述(新たな課題、改善点など)
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	A. 充分にできている	グループホーム会議を毎月開催し、職員全員で利用者のケア内容や課題について検討を行っている。また、介護計画については担当職員が行ったモニタリングをふまえて計画作成担当者が立案し、サービス担当者会議でご家族に同意をいただいている。	担当職員がモニタリングを行いサービス担当者介護を実施し介護計画を作成している。介護計画は年1回の見直しになっている。	A. 充分にできている	毎月のグループホーム会議で、各利用者の課題とケアのあり方などについて検討されている。担当職員によるモニタリングを踏まえて、介護計画作成がなされている。家族の意見も確認・記載もされており支援計画に反映されていることが確認できた。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	B. ほぼできている	介護業務ソフト導入により、申し送り機能でヒヤリハットや特筆事項等の情報共有が随時出来るようになった。担当職員が作成した24時間シートは全員で見直し修正を行っている。		A. 充分にできている	介護業務ソフトの申し送り機能を活用し、ヒヤリハットや特筆事項等の情報共有を随時されている。24時間シートは全員で見直し修正されている。状態変化については介護計画の見直しに反映できるとよい。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	B. ほぼできている	地域ニーズへの対応はまだ出来ていないが、地元の花火大会やお寺巡りのドライブに行くなど、入居者個々のニーズへの対応を行っている。家族対応が困難な受診への支援を検討中である。	地域ニーズに対応できていないと言うが、そもそも地域ニーズとは何かを考えることが必要。通院困難な入居者に対しGHでの病院受診についての方法検討を行っている。		地元花火大会や入居者が入居前に行っていたお寺へのドライブなど、できる範囲での外出等ニーズに対応している。地域資源や地域の人と連携・協働できるような取り組みを検討していけると良い。
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	B. ほぼできている	地元の花火を観てもらいために夜間に外出したり、入居者の自宅近くのお寺へドライブに行くなど、入居者個々のニーズへの対応を行っている。	今後も、入居者様の地域に対する思いを聞き、叶えていけるよう支援していく。		地域のイベントへの外出支援や個別のドライブなどなど、個々のニーズに対応されている。今後、地域との交流や連携ができるよう努めていただきたい。
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A. 充分にできている	入所前からの医療機関に継続して受診していただいている。必要な場合は受診時に看護師が情報用紙を家族に渡している。また、通院が困難な入居者には必要時家族を通じて歯科往診をお願いしている。家族対応が困難な受診への支援を検討中である。			利用者個々のかかりつけ医に家族支援で受診されている。必要に応じて看護職員が医師への報告書を作成し、入所者の情報を正確に主治医に伝えるよう努めている。また、歯科の訪問診療も受けられるよう対応している。
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	B. ほぼできている	入居者が入院した際には看護サマリーと24時間シートを送付し入院時連携を行う体制にある。知多厚生病院のソーシャルワーカーの方が運営推進会議のメンバーである。		A. 充分にできている	利用者の入退院時には、看護サマリーなどの書類を病院へ送付し病院と情報共有を行ってきたことが確認できた。運営推進会議に病院職員が参加し、情報交換を行っている。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	B. ほぼできている	「グループホームにおける重度化(看取り) 対応に関する指針」を作成し、入居契約時に説明し同意を頂いている。また、サービス担当者会議の際には重度化した場合の本人・家族の意向を確認している。		B. ほぼできている	入居時に重度化に関する指針を説明し、同意をとっている。サービス担当者会議の際には重度化した場合の本人・家族の意向を確認されているが、実際に重度化した場合の体制整備は今後の課題である。各地域で人生会議ノートを準備されているため、可能な方は活用してもよいかも考えない。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	B. ほぼできている	法人で作成した緊急対応のマニュアルをグループホームにおいても使用できるよう修正し、「緊急時ファイル」としてリビングに設置した。リビングには吸引器を設置し誤嚥・窒息に備えている。BLS研修に参加した職員がグループホーム会議で伝達研修を行った。グループホーム緊急時野対応訓練を行った。			緊急時のマニュアルや吸引器を設置している。BLS研修を受けた職員が伝達講習を行っている。実際急変発生時に対応できるよう訓練で課題を洗い出し、全職員で確認する必要がある。
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	B. ほぼできている	地域との協力体制はできていないが、避難訓練は定期的実施している。R5.6月に長時間の停電を経験し、停電時の対応について確認したマニュアル作成を行った。事務所内にランタンや防災用品を整備した。	立地上地域と協力することが難しいと考える。定期的な訓練の実施と振り返りを行っており、災害時に備えている。また、町防災担当者から講義をもらったり防災頭巾を手作りするなど取り組みもしている。	B. ほぼできている	入居者とともに消火避難訓練を実施している様子が確認できた。定期的な訓練の実施により、前回とは違った課題の解決策を見出してほしい。予期せぬ長時間停電を経験したことで、マニュアル作成、備品整備に活かされている。今後地域との協力体制の構築が望まれる。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述 (具体的な実施状況など)	現状の課題や質の向上に向けて運営推進 会議で話しあった内容	外部評価	記述(新たな課題、改善点など)
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	B.ほぼできている	「否定しない・指摘しない・怒らない」を昨年に引き続きグループホーム年間目標に掲げ支援に取り組んでいる。入居者の意向を尊重し否定しない支援を考え、24時間シートに記入し共有している。		A. 充分にできている	「否定しない・指摘しない・怒らない」を年間目標に掲げ、スピーチロックの具体例を事務所内に掲示されている。食事や排泄ケアにおいても入居者の尊厳を尊重したケアが考えられ、24時間シートが作成されている。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	B.ほぼできている	24時間シートを作成し、本人や家族の意向を反映した生活が送れるよう支援している。起床・就寝時間もその人のペースで決め、日課の体操や心経も、参加するかしないかは本人に決めてもらい無理強いないようにしている。グループホーム会議で検討し共有している。			個々の暮らしぶりを入居時に確認し、それに応じた計画立案がされている。日課の体操や心経への参加も本人の状態に合わせて無理強いないよう配慮していることが記録から確認できる。入浴に関しても同様に、頻度や方法など本人の意向に合わせている。
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	B.ほぼできている	配膳や調理ができる利用者には一緒に行ってもらっている。昼食と夕食の副食は業者の製品を採用しているが、ご飯と味噌汁は毎食施設で作っている。また、イベント時の食事やユニット調理なども随時行っている。		A. 充分にできている	利用者のできる範囲で食事の準備や片付けを職員と行っている。定期的に食事会を開催したり、お弁当を持って外出先で食事を摂るなど入居者と一緒楽しめる支援を行っている。イベントでは季節を考えたメニューなど工夫されている。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	B.ほぼできている	昼と夕食は業者の製品を採用しており、栄養バランスは整っている。食事摂取量や水分摂取量は利用者ごとに記録している。食事摂取量が少ない利用者には栄養補助飲料や家族持参の栄養補助食品を提供したり、少しでも摂取量が増えるように提供の仕方を検討している。			食事と水分の摂取量は利用者ごとに記録され1日の摂取量がわかるようになっている。個々の摂取量に応じて、栄養補助食品や家族の差し入れを提供するなど個別の対応がされている。
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	B.ほぼできている	口腔機能を保つため、毎日口腔体操を行ない、食後に歯磨きの声掛けや介助を行っている。毎月併設デリの歯科衛生士が利用者の口腔状態を確認しケア方法の指導を職員に行っている。		A. 充分にできている	口腔機能維持のために、毎日の口腔体操、歯磨きの声掛け・介助が行われているとともに、毎月歯科衛生士が口腔状態を確認し、スタッフにケア指導されていることが記録で確認できた。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	B.ほぼできている	利用者の排泄状況は記録に残し、職員間で共有している。失禁がある利用者には定期的に利用者に適したトイレ誘導を行っている。利用者ごとの排泄パターンや尿量に応じたオムツを使用している。排便コントロールについても入居者の体調変化に応じて随時見直している。		A. 充分にできている	利用者の排泄状況は記録され、パターンや習慣を把握されている。失禁のある利用者でも、利用者の意向に合わせてトイレでの排泄支援がされている。利用者ごとの排泄の支援方法等はグループホーム会議で話し合いがなされ、職員間で共有されていることが確認できた。
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	B.ほぼできている	原則2日に1回入浴していただいているが、希望する方は毎日入浴したり入浴が負担となる方には入浴の頻度を考慮している。入浴を嫌がる利用者にはその人に応じた誘いや入浴方法を検討し実践している。			利用者の希望や体調にあわせて入浴頻度や方法を決めていることが確認できた。入浴を嫌がる傾向の方にも声掛けを工夫し誘導している。
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	B.ほぼできている	日中は体操や心経など出来るだけ活動し、夜間良眠できるように支援している。疲労しやすい方には昼寝の時間を設けている。その方の生活習慣を尊重して就寝時間・方法は自由に決めてもらっている。			日中は体操や般若心経を唱えるなどできる限り活動していただき、夜間によく寝られるよう支援している。利用者ごとに昼寝をしたり、就寝時間を決めたりし、柔軟に対応している。好みの寝衣や習慣をスタッフが把握し、着替えや習慣も行えるよう支援されている。
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	B.ほぼできている	看護師が内服薬の管理・セットを行い、薬の情報は1冊のファイルにまとめ各職員が確認できるようになっている。服薬時は記録に残している。服薬方法が変更になった時には連絡ノートで周知している。		A. 充分にできている	薬剤情報はファイルに集約し閲覧されている。服薬一覧で、どの利用者がどのタイミングで何を服用するか、服用されたか確認する仕組みがある。24時間シートに服薬支援方法について記載されている。特記は連絡ノートで共有されている。その後の症状変化を記録し情報共有できるとよい。

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述 (具体的な実施状況など)	現状の課題や質の向上に向けて運営推進 会議で話しあった内容	外部評価	記述(新たな課題、改善点など)
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	B.ほぼできている	ゴミ捨て・食器拭き・食事の配膳など、生活の中でその人の能力に合わせた役割を持ってもらえるよう支援している。入居者の能力に応じて職員がさりげなくサポートし、出来たという達成感を感じられるようにしている。誕生会や季節ごとにイベントを企画・実施している。	一人一人に合わせた支援を行っていると思う。		ゴミ捨て、食事の準備片付け、生け花、買い物など、利用者の能力と意向にあわせて集団・個別に役割や楽しみごとを行えるよう支援されている。役割や趣味を通じて、達成感や喜びを感じられるようにサポートがされている。
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	B.ほぼできている	新型コロナウイルス感染症の流行以降、家族との外出はできていないが、近くに花見に出かけたり、希望する利用者にはドライブで外出と外の景色を楽しんでもらっている。	ご家族との外出は増えつつあるが、入居者様の筋力低下や人員の都合等により入居者様と支援員が戸外に出掛けたり散歩する機会が難しい。		お寺巡り、ドライブなど外出レクリエーションやドライブを実施していることが確認できた。また、敷地内に庭があり戸外に出られる環境も整備されている。今後は、感染対策をしながら家族とも外出ができるようになるとなお良いと考える。
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	B.ほぼできている	家族と相談して本人持ちの財布を作り、支払いができる利用者には自分で行ってもらっている。コロナ禍で買い物に行けない為、施設内で不定期に「なかよし売店」を開いている。			支払い可能な利用者には、家族と相談して財布を持ってもらい、買い物時に支払いをしてもらっている。金額を確認するなどできないことはスタッフがサポートされている。施設内で行われる「なかよし売店」で、好きなお菓子をを選んで買い物を楽しんでいる。
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	B.ほぼできている	手紙をファイルにとじ保管していつでも読み返せるようにしたり、電話を取り次ぎ家族と話をしたりする支援を行っている。			家族とのつながりを保つために手紙をクリアファイルに入れ、利用者がいつでも読み返しやすくように準備されている。双方向で電話の取次ぎを行い、家族と話せるよう支援されている。
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	B.ほぼできている	食卓やイス、ソファ等は家具調で、家庭的な雰囲気になるよう配慮した。リビングには季節を感じられるような花や飾り(雛人形や正月飾りなど)を随時飾っている。時計や絵画は入居者の目線に合わせて低く取り付けている。		A. 十分にできている	共有スペースの机や椅子は転倒やけがをしにくい仕様な家具調で、家庭的な雰囲気となっている。リビングには季節の飾りや生け花を飾っており、季節感があると同時に共有の生活の場として華美ではない節度が保たれている。部屋には自分の好きなものを置くなど、利用者が心地よく過ごすための配慮がある。
<b>IV. 本人暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)</b>							
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています	B.ほぼできている	「暮らしの意向聞き取りシート」やアセスメントシートをもとに24時間シートを作成し、本人や家族の意向に沿った生活が送れるよう支援している。また、活動への参加やおやつ飲み物は入居者にその都度確認している。			「暮らしの意向聞き取りシート」やアセスメントシートで把握した意向や暮らしぶりをもとに24時間シートを作成されていることが確認できた。好きな飲み物で水分摂取できるよう利用者に寄り添った対応をされている。
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	B.ほぼできている	入居に際し情報収集をして出来るだけ習慣を継続できるよう支援している。花が好き人は生け花の趣味を継続してもらったり、自宅からなじみのものを持参し居室を仕立てている入居者もいる。			入居に際し情報収集をして出来るだけ入居前の習慣を継続できるよう支援されている。読書や生け花、仏壇を持参してのご主人の供養などを続けている利用者もいることが資料写真より確認できた。
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	B.ほぼできている	職員が毎日検温、体調観察を行なっている。看護師が職員として配置され日常的に相談できる体制にある。緊急時にも連絡をとり、受診の必要性の相談や対応方法を確認している。入居者に関する情報は連絡ノートで随時共有している。		A. 十分にできている	毎日検温、必要な方は血圧なども記録されている。ケアの変更や特記事項は連絡ノートで共有されている。看護師が職員として配置されているため、日常的に相談できる体制がある。

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述 (具体的な実施状況など)	現状の課題や質の向上に向けて運営推進 会議で話しあった内容	外部評価	記述(新たな課題、改善点など)
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	B.ほぼできている	入居時に修した情報をもとに担当職員が入居者ごとの「24時間シート」を作成し、全職員で確認・修正している。起床・就寝時間も過ごし方もそれぞれの入居者で異なっている。			入居者のこれまでの暮らしをアセスメントし、個別の「24時間シート」が作成されている。起床や就寝時間など利用者のペースを維持できるよう支援されている。変化していく生活習慣に対しても、全職員で確認・修正し定期的に見直すことで対応している。
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができている	B.ほぼできている	家具やベッドは持ち込みとし、入居者が落ち着くようになしつらえにしている。入居者ごとに愛読書やお花、趣味の車など居室においてある。家族からの手紙や写真のファイルを毎日眺めている入居者もいる。		A. 充分にできている	入居前に使用していた家具や物を居室に持ち込むことで、できる限り落ちついた生活が送れるよう配慮している。家族からの手紙を見やすそうファイリングしたり、仏壇など大切なものを身近に置いて安心できる環境を整えている。
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができている	B.ほぼできている	玄関に通じる扉はオートロックで夜間は施錠しているが、日中はできるだけ開放し入居者の希望に応じて外に出られるようにしている。感染対策を実施しながらドライブに行ったり施設内で楽しめるイベントを開催している。	帰宅願望の為だが、毎日のように施設から外に出る入居者様もいるが制限する事はない。ドライブを予定する事はあるが、「今日はここへ出かけたい」という希望をすぐに叶えることが難しい。		玄関に通じる扉は日中はできるだけ施錠せずに開放するようにしており、本人の意向により外へ出ることができるようになっている。希望者はドライブに行ったり、季節ごとの行事などを企画し家族も一緒に参加できるイベント等を開催している。
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている	B.ほぼできている	入居者の能力を把握し、調理や配膳など役割を果たせるよう職員が関わりながら支援している。た、施設内で楽しめるよう手作りのパズルを作ったり、熱中できる手仕事を準備している。			入居者の理解や能力に応じて、できる範囲の調理を行ったり、家庭菜園のお世話などしている様子が確認できた。刺し子やパズル作成など楽しみごとの支援もされている。行事への参加も楽しんでいる様子が確認できた。
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場を日々の暮らしの中で得ることができている	B.ほぼできている	仲の良い入居者同士会話が弾むよう食事の席など配慮したり、昔の思い出など支援員が話題を向け、会話を引き出すよう支援している。入居者に合わせた役割をお願いし役割を担ってもらっている。		A. 充分にできている	同じ地域や気が合いそうな利用者同士を隣の席にして会話のきっかけ作りをされている。難聴の方には職員が会話のあいだを取り持つこともある。役割をもった生活により、メリハリができたり次への意欲につながる支援ができている。
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	B.ほぼできている	昨年引き続きコロナ感染予防の為日常的に外出はできないが、ドライブに出かけたり、朝夕にゴミ捨てに行く際同敷地内にある特養職員等に挨拶したりできる限りの交流を行っている。	みかん狩りのシーズンでは、施設前にいた入居者様がみかん狩りセンターの方からみかんをいただくなどした。今後もこのような交流ができればよい。		神社の境内でお弁当を食べたり、ドライブ先などで、交流をされている。併設施設もあるため敷地内で行える範囲の挨拶や会話がされている。感染状況によるが、もともとの地域で通っていたお店(喫茶店・食事処)などへ外出できるとなお良いか。
49	総合	本人は、このGHIにいて、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	B.ほぼできている	地域住民との交流は少ないが、施設職員とは毎日たくさん話し、大半の入居者は笑顔で過ごされている。入居後間もなく帰宅願望のある入居者もいるが、徐々に落ち着き穏やかに過ごせるようになってきている。	帰宅願望のある入居者様2名見えるが、入居当初より少しずつ慣れている様子である。帰宅願望等BPSDについての勉強会をGH会議にて開催予定である。	B.ほぼできている	帰宅願望が落ち着くまで、都度対応されていることが記録から確認できた。外出や地域住民との交流が制限される中でも、入居者が施設内で楽しめるよう、職員が工夫し連携されていることがわかる。